

**平成 27 年度 第 2 回 千曲市食料・農業・農村政策審議会
議 事 録**

日 時：平成 27 年 9 月 29 日(金) 13：30～15：50

会 場：千曲市役所 上山田庁舎 302 会議室

出席者：木村会長、関口委員、城本委員、宮坂委員、春日委員、村松委員、春原委員、
西澤委員、塚田委員、宇田川委員、池田委員

欠席者：松澤副会長、久保委員、高村委員

議 題：千曲市食料・農業・農村基本計画の見直し（骨子）について

1 開会

2 経済部長あいさつ

3 自己紹介

4 正副会長の選出

委員の互選により

会 長 木村 和弘

副会長 松澤 徹

拍手多数により選出

5 千曲市食料・農業・農村基本計画の概要等について

事務局より経過を含め説明

6 議 事

千曲市食料・農業・農村基本計画の見直し（骨子）について

（1）基本計画・第 1 章・

事務局より骨子案第 1 章にて説明

会長	世界情勢についての記載が多いが、千曲市を取り巻く環境がどうかの記載が不十分である。
委員	骨子の各所に「安心・安全」「地場産」との意味合いの記載がされている。この部分について重点を置き、更に推進することが必要。
会長	今回の見直しでは、今までの基本計画の進捗状況を踏まえたうえで、平成 28 年度以降へ向けてどのように生かしていくのか。そのような視点が重要。
委員	鹿やイノシシが山手沿いのみでなく、家の近くまで来ている。これにより、果樹等の若芽が食べられてしまう。特に大字上山田・城腰の地区では著しく、農業

	<p>経営を継続するのも難しい状況。また、柵を設置する箇所がいくつもあり、設置していない箇所へ更に動物達が現れるようになった。対策として、もう少し根本的な解決が図れるような施策が必要ではないか。現在耕作が営まれている田畑も荒廃化する現状が目前に迫っている。</p> <p>また、知り合いの情報によると長野市の若穂では熊も出現し、なし等の果樹の被害もある。鹿やイノシシのみならず、大きな危険を伴う動物が出現する時代もすぐそこに来ている。</p>
委員	<p>現場の声がこのような類の計画において見えにくい。</p> <p>大枠を決めてから施策を打つのではなく、現場の声にもとづいた施策を先行してから大枠を決めていく事が課題解決には重要ではないか。</p>
会長	<p>各委員のご意見はごもっともな部分もある。</p> <p>しかし、今回の計画は前回の計画を踏襲しながら作成されており、今回はその見直しであり、計画の構成となっている。意見を完全に無視するわけではないが、そのような背景があることは承知していただきたい。</p>
会長	<p>今回の計画骨子は、千曲市の地域的な部分が隠れており、世界の情勢が前面に押し出されている。そのバランスを今一度検討する事が必要ではないか。</p>
委員	<p>LP の項目の中で具体的な施策検討が行なわれており、今回はその基礎となる骨子の部分であるため、その部分について審議していくのが望ましい。</p>
会長	<p>千曲市の市民の皆様が見た時に、分かりやすくするため、地元の事を更に入れていくことが必要。そのような方向性で再度見直していく事でよいか。</p>
事務局 委員	<p>いただいた意見を元に検討し、反映させていく。</p> <p>計画の推進主体の部分で「食品産業の事業者」として記載しているが、職のみならず、あらゆる商工業に関係する企業が多い現状。ものづくり産業や、サービス業を含め、もっと大きな枠組みの中で事業名の記載が必要。</p>
会長	<p>各種計画との調整の中で、いただいた意見については是非反映を。</p>
会長	<p>条例上の 12 の施策分野が計画では指定されているが、それぞれが関連しあっている。1つをとってみても荒廃農地問題や担い手問題等、多くの関連性がある。見直しにあたっては、その関連性についての説明・記載も必要となってくる。</p>
委員	<p>7 ページに計画の主体が記載されているが、市の役割が「推進母体」との書き方となっている。推進のみのあり方では、説得力に欠けるので、更に踏み込んだ書き方が必要。</p>
会長	<p>市が実行する場合、農林課のみならず多くの関係機関が関わってくる。横の関係を大事にし、共に考えていくことが課題。</p>
会長	<p>現在 LP は 27 ・ 施策は 12 存在し、食料、農業、農村に分かれている。これについて、各 LP や各施策は相互に関係しあっている。積極的に関連しあって課題への対策に結びついているという事について去年話し合われた事も委員各位には承知しておいていただきたい。</p>

(2) 基本計画-第2章-

事務局より骨子案第2章について説明

会長 委員	<p>千曲市独自にもう少し具体的な事例を記述したほうがよいと思われる。</p> <p>千曲市の現状として記載されている 15 ページだが、特産品で作物名が書かれている。そこについて「県内シェアの上位を占める」との記載との整合がとれないので訂正する必要がある。</p>
会長	<p>図による標記や、他市町村との比較による千曲市の特色を出していくことも必要。田んぼ一つとっても屋代と姨捨では性格が違う。また、山間地では有害鳥獣対策等の問題が地域ごと存在する。そのような実態を記載していくことが重要。</p>

委員	農業関連産業「ワイン」「あんず」等には新しい動きも出ていると思われる。そのような動きが分かるような書き方も必要ではないか。そのような内容がないと次に控える、千曲市における施策の展開につながっていかない。
会長	記載されている以外にも、市の明るい農業状況などの「新しい芽」を記載してもよいのでは。また、データを地域と連動させて載せて分かりやすく示してほしい。
委員	全体的に課題点等の「内向き」の部分が目立ってしまっている。市としての「戦略的な部分」を検討し前面に押し出していかねば行けない。 例えば、5年前より消費者も経営者も高齢化し、危機的な状況は進行している。地域の中で地産地消だけでなく、販路拡大等の活動により明るい道を見せていくことが重要。現状は農業だけで生活していくことが難しい時代だからこそ。 また、市の商品を、市外の方へ買っていただくための未来像まで構築しなければいけない。現状を踏まえ、定年後の都会の方々を受け入れていく方策等も考えなければ行けない。
会長	現状は良い部分があれば悪い部分もある。農業を取り巻く困難な情勢から、いかに良い部分をピックアップして先導させていくかが計画だ。
委員	必ず「安全」「安心」の記載がされているが、本当にそれが達成されているのかを考える必要がある。現代の子供たちの状況を見るとそうとはいえない。 千曲市の農業の特徴として、「安全」「安心」を打ち出していくことが一番いいのでは。消費者のアンケートでもその関心が1番高い結果となっている事も踏まえ、子供たちの食育のためにもこれを一番に打ち出すべきでは。都会の人材を呼び込むためにもPRポイントとして特徴になりうる。市は防災の面から安心であると言われているが、農業の安全も守るべきである。 また、食料施策第2項の課題の中で、健康な食生活や郷土料理等の内容が記載されているが、これについても若い世代を呼び込む観点からもより推進する必要がある。食料施策第3項については、学校給食について触れられているが、現状の統計を見ると第1給食センターで10%弱、第2給食センターで20%弱程度の地元産農産物しか使われていない。地元で取れた「安全」な農産物を小さい頃から食べさせなければならない。
会長	前回の審議会でも話題になったが、学校給食の意見交換会について、さらに大きな角度や違った視点から実施したほうが良いのではないかと、この事についても触れた。農業サイドから考えるばかりでなく、より多くの方と一緒に検討していくことも必要。
委員	松本市のある給食センターでは1万食以上を作っているが、地場産の使用率が70%のところもある。そのようなやり方を真似る必要性も検討してほしい。定期的に供給できる体制ができるとコンスタントに給食に地元産を使用できる。 また、上田市の真田地区では農薬を使わないで作った野菜が学校給食に出されているそうだ。そのような取り組みで、子供の成育にも好影響を及ぼしている。
会長	これらの具体的な話等を踏まえ再度見直しを行なう必要。実施した活動についてしっかり評価を行い、今後の施策を検討していく必要がある。
会長	20ページの農村施策であるが、基盤整備や荒廃農地について記載されているが、具体的にどの地域で荒廃化が進んでおり、どの地域で基盤整備が遅れているのかそれらを計画に記載していく必要がある。そのような詳細の部分まで示しておかなければならない。
委員	今年の夏、銀座NAGANOに寄り、販売員と話した。銀座では各種デパート関係であんずのジャムがなかなか見つからなく銀座NAGANOまで探しにくるお客様もあり、また、ハーコットも人気であるとの事。また、千曲市は天皇陛下が私的な旅行で訪問した地でもある。あんずについては、千曲市の「花」とすること

委員	<p>で、象徴的な存在にしたらどうか。</p> <p>あんずにまつわる産品開発、イメージ化しての販売を目的として「杏都ブランド」が近年販売されている。その商品は屋代駅ウェルカムステーション等市内いたるところで販売されている。</p> <p>しかし、あんずの木は年々減少しており、そのことについても計画で触れる必要がある。千曲市独自の色を出していかないと。</p>
会長	<p>また、あんず商品を観光へ絡めて売り出していくこともいいと思う。</p> <p>ホームページを見てもあんずのジャムがたくさん出てくる。あんずの記述を増やすことで、地域の特色にもなる。</p>
委員	<p>あんずの木が弱っていたり、管理する人々がいなくなってきた現状が課題。6次産業化等を考えていく中で、所得の向上や採算性の確保までを考えた上での取り組みが必要であり、それを考えた上でかつあんずを市として打ち出してほしい。とりわけ、市内の一部農業法人のように販路の拡大により解決していく視点が重要。</p>
委員	<p>また、グリーンツーリズムで千曲川が生かされていない。若い女性が来れるような施策を行うことも必要。また、防災面においても重要な場所である等の理由もあるため、是非グリーンツーリズムの中に「千曲川活性化」を入れてほしい。</p>
事務局	<p>青年就農給付金の支給上限は。</p>
委員	<p>45歳です。</p>
委員	<p>50歳ぐらいまでであれば、後継者としても十分なぐらい活躍できると思うので、そのぐらいまで支援してほしい。</p>
会長	<p>国の制度であり市のみで判断はできないが、市独自の助成制度としても検討できる可能性も。</p>
委員	<p>農業界から見ると50歳までの方でも若い世代なので支援してほしい。</p>
委員	<p>現状、農家の息子も跡を継ぐか分からないぐらい、担い手が確保できない厳しい現状がある。</p>
会長	<p>一方では、農業をこれからやりたい方がいるのが確かで、1人でも新たに農家として入ってきてくれればありがたい。例えば、大学の学生達を地元へ引き込むような施策にまで手を出す必要があるのでは。</p>
委員	<p>無農薬等へ興味を持って農業をやろうという方もいる。だからこそ、「安心」「安全」を売りにしていかなければ。</p>
委員	<p>年金をもらって農業を行なう方は多いが、若い方がこれから結婚や子供を育てていく中で専業で農業を行っていくのは難しい。だからこそ、販路拡大を進めていく中で、市外や県外の方が買ってくれる場所を市内から探す等、新しく農業を始めていく方の生活基盤が成り立つような支援を行なっていくことが求められているのでは。</p>
会長	<p>現状、生活をかけてまで農業を行なおうと考える若い人は少ない。</p> <p>多様な担い手の確保を考えなければ。担い手となりうる存在はいるため、その掘り起しを。</p>
委員	<p>農業への認識が甘い。昔は手作業で今は機械化が進んでいるが、その機械の値段は数百万以上かかる。採算が合うかどうかにも考えなければ。根本的に現代の千曲市の農業の仕組みを考え、把握して考える必要がある。</p>
委員	<p>また、集積を行なうにもやはりお金がかかる。それでいて千曲市の土地は狭く農地集積にも限界はある。現状の厳しさを認識してほしい、机上の空論で終わってしまう。例えば、農協で機械を買って安く賃貸する等、営農者の金銭面での負担を減らす事も必要。</p>
会長	<p>農業の形態も様々で、個人のみならず集落営農など協力し合って経営する方法もある。</p>

委員	やはり、機械にはお金がかかる。機械化されて労力減にはつながっているが、それとは逆にお金がかかってくる。販路拡大も大事であるが、農協や市には金銭的な負担を減らす事も考えてほしい。
会長	千曲市には中山間地域が多く、周囲の耕作状況・荒廃化状況等にも維持管理は影響されるが、現状荒廃化等が進行しており厳しい現状となっている。一人が耕作をやめれば周りの保全にも影響し、集落としての営農活動にも影響が及ぶ。そのような状況も踏まえ、骨子案をもう一度見直す事が必要では。
会長	本日の時間内で皆さんの思いの全てを詳細までこの場で全て話す事は難しいので、改めて意見を事務局に送付するとの事でどうか。
委員	異議なし
会長	重点施策として3つ上げているが、他にも「新しい芽」となりうるような施策も入れていくべきでは。また、農業施策だけでなく、食料施策も入れて再検討を行なうべき。
委員	施策間の関連性や農業以外との関連も含め、検討が必要。
会長	委員の皆様には、他に意見があれば事務局へ改めて連絡・提出をお願いしたい。

(3) 基本計画-第3章-

変更がない箇所のため割愛

(4) 7月実施のアンケートについて

事務局より説明後、SCOPより補足説明

7 その他

情勢報告 姨捨の棚田米について

ワインぶどうの取り組みについて

新規就農相談会について

関東圏への物販活動について

8 閉会

以上